

朝散太夫の末裔

長谷川時雨

青空文庫

朝散太夫ちようさん だいぶとは、支那唐朝の制にて従五品下の雅称、我国にて従五位下の唐名とうめいとある。

太夫とは、支那周代の朝廷及諸侯の、国の官吏の階級の一、卿の下、士の上に位くらすとある。もつと委くわしく、博ものしり学ららしく書きたると、支那唐代の官職に依る貴族の階級中、従二品より従五品下までの名目めいもくだった語で、従二品が光禄太夫こうろく、正三品が金紫光禄太夫、従三品銀青光禄太夫、正四品上が正議太夫せいぎ、正四品下が通儀太夫、従四品上が大中太夫、同下が中太夫、正五品上が中散太夫、下が朝議太夫、従五品上が朝請太夫、下が朝散太夫ナリである。

我国 うこんえしやうげん 右近衛將監 を右近太夫、公卿の子でまだ官位のないのを、
いずれ五位に叙せられるからというので無官の太夫という。

ここまできるとやつとなしみ馴染がある。無官の太夫ならあつもり敦盛とい

う美しい平家の若武者で、大概の人が芝居や浄るりや、あるいは
はいし稗史でよく知っている。もつとも朝散太夫あさのたくみのかみながのり浅野内匠頭長矩、

即ち忠臣蔵の塩えんやはんがん冶判官高貞もそうである。

その、従五位下朝散太夫の唐名をもった人が、湯川氏一族、御
直参ならずもの仲間の、藤木の先祖の一人。

藤木一門には、それよりもつとえら偉い人物があつたのかも知れな
いが、アンポンタンには見上げるような高い石碑に、××院殿従

五位下前朝散太夫なんとかのなんのなんとかと、とても長く彫きざりつけてあつた朝散太夫を子供心にすっかり覚えこんでしまったのだつた。藤木家の寺院おてらは、浅草菊屋橋ほとりの畔にあつて、堂々とした、そのくせ閑雅な、広い庫裏くりをもち、藪やぶをもち、かなり墓地も手広かつた。昔はもつと広ひろかつたのであろうと思わせたのは、藤木氏一門のどれも美事な見上げるような墓石が、両側に五十余基も正せいぜん然と、間隔あいだをもつて立ちならんでいたのでわかつた。震災後の市区改正で、いまでは電車の走る区域になつてしまつていないかも知れない。

「よくあの墓石を売らなかつたな。」
と誰かいうと、このお旗本は、杯口ちよくを下げの膳ぜんの上うへにおいて、瘦そうし

身の男が、猫のように丸めた背中をくねらし、木乃伊みいらみたい
に黒い長い顔から、抓つまみよせた小さな眼を光らせて、

「やったさ、お前さん。」

まあお聴きといったふうに、招き猫の手つきをする。

「大あらいところは目につくから——へッ、鰻うなぎだと思ってるんだね、

小串こぐしのところをやったのでね。性質たち（石の）のいいやつばかりお

好みと来たのさ。そうさ、姐ねえさんおかわりだ、へい宜しゅうつて

んで、なんしたんだが、あんまり大きすぎたのはいけないね、眼

にたつんで、客の方が二の足でね、なにせ、だいぶお立派な方々

でございまして、へッて、平伏かしこまつちまやがるんだから。ありや

いけないね、あんまりゴテゴテの戒かいみょう名ななんぞつけたのは。子

孫へ不孝つていうもんだ——なにつてやがる、さんざ香こうこのように食つといて——」

自嘲じちようして、お酒をまた一口のんで、長いまばらな黄菌きばを出して見せて、

「いまじやこの菌じや喰くえもしないさ。」

「鰻うなぎをおあがり。」

「おおけに。」

わざと京かみがた阪言葉のまねをして、箸はしのさきにつけたこのわたを舌の上にたらす。

中の間まの十二畳、蔵前の拭き込んだ板の間の方によつて、茶だんすや菓子戸棚や、釣つり棚だなのある隅に大きな長火鉢がある。その

前の座布団には、祖母か、父か、たまに母が座る。その近くに夜の洋燈ランプも釣りさげられる。夏でもなければ庭にむかった縁側や、玄関前の庭にむかった肘ひじかけ窓の方へ寄らず、懇意なもののみんな火鉢の方へ丸くなつた。無論アンポンタンの生れた家のことで、藤木さんは此処ここへくると、気さくで皮肉で、小心な正直ものだつた。

彼は氣の弱さと小ささからくる偽悪家だつた。それは若い時は仕様しやうのない放蕩者ほうとうものでもあつたであろうが、それは時代と環境の罪もあつて、彼ばかりがわるいとは言えない。ヘドツコになつてしまつた江戸兎の末裔まつえいは、誰もがそうであるように、辛辣しんらつな軽口かるくちで自家ざんぶをやる。自分自身で自分をメチャクチャにこ

きおろして、どうですといったふうには聴手の困るのを痛快がる。

みじん見得みえはないようで、そのくせ見得ばりで、それがせめても

の自棄した修飾である。鼻つぱりの強い意気地なしなのである。

寄席よせの高座こうざにのぼる江戸風軽口はなしくちの話はなしくち口くちをきくと、大概みんな

自分の顔の棚たなおろ下しや、出来そくなつた生れつきのこきおろし

をやる。それがみんな本気だと思つたらおめでたすぎる、全部が

全部みな徹底した市井しせいの聖人だとおもうものもなからう、とおな

じで、生活惨敗者は自己をこきおろして自慰じいする。そこまで察し

てやらないものは、厭がらせばかりいう人だと鼻つつまみにす

る。あの時代の藤木さんもそんな風にとられましたが、家のもの

たちも彼が小心で正直ものなのは許しきつていた。子供は変など

ところで対手あいての直情に面してしまふものだから、対手を職業や、その折の境遇で見直したり見違えたりはしない。それにあたしがアンプンタンで無口だったということが、彼に自分の子供の前より安心させ気楽に思わせたのかも知れない。

自宅うちにいと皮肉やで毒舌で、朝から晩まで女房に口小言をいっている藤木さんも、アンプンタンには馴染なじみ深い面白い大人だった。あたしは玄関の八畳で、角火鉢の大きなのにあたっている彼の顔を穴のあくほどマジマジと見ていることがあった。子供心には、それから十年も十五年もたった後の顔と、そんなに違わなかったように思えた。眼は青かったが、その眼は高すぎる鼻の方へ引っぱれて、猿猴えんこうにも似ていたが、見ようでは高僧にでもあり

そうな相もあつた。やや下卑げびていたこともたしかだつた。福は内
 の晩に——年越しの豆撒まめまきの夜——火鉢の炭火のカツカツと熾おこつ
 ているのにあたつてゐる時、あたしは祖父さんの遺品かたみの、霰あられこ小
 紋もんの、三ところ家紋もんのついでゐる肩衣かたぎぬをもつてきて藤木さん
 の肩にかけて見た。すると藤木さんは言つた。

「チヨン鬘まげに結いつておくれ。」

あたしは前かけをとつて、彼の頭にチヨン鬘を結びつけた。小
 僧さんのする盲目縞めくらじまの真黒な前かけでもあることか、紫地に桜
 の花がらんまんらんまんと咲いて、裏には紅絹もみのついでゐるちりめんのチ
 ヨン鬘、しかも額ひたいに緋ひぢりめんの紐ひもの結び目が瘤こぶのように乗つか
 っている。それで平気で煙草タバコを吹かしている。その背中が真ん丸

いので、あたしは拳骨げんこでコツコツ叩たたいた。

「痛いよ、痛いよ。」

「でも猫のようだから。」

「ニヤアン、鍋島なべしまの猫だよ、化猫ばけねこだよ。ゴロニヤーン。」

彼はフーツと行って、背中を見る見る盛上げた。

それは全く奇怪な存在だった。アンポントンはおしつこが出るほど吃驚びっくりして、火鉢ふちの縁ふちを握ったまま、首をすくめて中腰になった彼を見詰めた。

その頃藤木さんは、災難つづきで極度な落目だった。下谷青石横町の露路裏のドンツマリの、塵埃ごみすて場の前にいたが、隣家となりの女髪結さんから夜中火事を出して、髪結さんは荷物を運び出して

しまつてから騒ぎだした。一ツ棟だ、かえつて火元よりは火廻りの早かつた藤木の方が何もかも丸焼けで、垣根を破つて隣裏となりうらへ逃出し一家命いっかだけは無事だつた。で、神田白銀町しろかねちようの煙草問屋へチンコツきりに通うようになった。あたしたちが牢屋ろうやの原はらとよぶ、以前の伝馬町大牢のあつた後の町から、夕方になると、蝙蝠こにおくられて、日和下駄ひよりげたをならして弁当箱をさげて、宿り番とまに通つて来てくれたのだつた。

藤木さんはよくいろんな話をしてくれた。御上洛（將軍慶喜）のお供ともをしたことや、京女のこと——京女の体つきまでにせて、ヘンな京言葉をつかつた。

「うつるか。」

つてやがるから、

「かさか。」

つて聞いたらね、

「なにいうてやな。」

つて怒りやがった。といった時、母がちらと聞いて、

「子供の前でそんなばかな事をいつて。」

と立腹した。藤木さんはかめ亀の子のように首をすくめて、

「なにね、女郎おやまのはなしをしていたのですよ。女郎人形おやまにんぎようなん

という美しいが、ブヨブヨで汚ねえってね。」

アンポンタンは藤木さんの黄色い歯を見て、どうしても京の女郎というものが美しくないと信じられなかった。

「ねえお滝さん、女郎おやまがこういったんでさあ、旦那さんうつるか
つて。だから、梅毒かさかかってたら、なにいうてやの、あほらし、つ
たんでね、なんのことかとおもったら、それ、やっぱり京女は優
しいところがあるのさ。情がうつるかと聞いたんだってえのよ、
返事がとんちんかんだから、厭いやな奴やつだと思われようつてもんさ。
だけれど、その時いつてたね、東あずまおとし男は金ばなれがいいつてさ。
そういつたつてお前さん。貧乏旗本に金なんぞあるわけはないん
だが——男振りでもてたのかもしれないねえ。——なにしと、そ
れこそ、なにいうてやの、あほらしいだ。」

「藤木さん、藤木さんも小さい時分、前髪を結つてたの？」

あたしにはそんな駄じやれはわからなかつたから、自分の質問

を出した。

「オ・イエース。」

藤木さんは胸を反して膝の上に両手をおいた。

「秀才だったのだよ。なんて、菅秀才はお芝居の寺小屋へ出る。他の秀才は他人のことで榎本の釜さんなんかがそうだったのだね。僕なんぞはおんなじように、子のたまわくなんてやって、なんの事だかチンプンカンプンだったのだ。だからだめさ、勉強しなくっちゃ、なんでもいけないさ、君のお父さんなんか、剣が利いたからたいしたものだ、剣の方じゃどうして立派な手腕だったそうなの。今だつてなみたいいなものは前へ廻れまいさ。」

「釜さんて誰のこと。」

「榎本武揚えのもとたけあきつて人があるだろう。」

「ああ、知ってる。」

「あの人のちいさい時分には、家が貧乏で——はて、彼あそこは何人
 扶持ふちだったけかな？ 根岸の奥でね、藪やぶのある、門に大きな樹きの
 あった家さ。釜さん、遊ばないかつたつて返事もしやしない。子し
 のたまわくだ。なにしてやがるかと思つて、破やぶけた窓の障子から
 覗のぞくとね、ポンポチ米を徳久利とつくりで舂つきながら勉強してやがるんだ。
 使いにゆく時だつて破れ袴はかまをはいてね、こちとら悪太郎の仲間に
 なんかはいらねえで、いやに賢人ぶつた子供だったよ。ヤイ釜公、
 どうして遊ばないんだと怒鳴つてもだめ。みんなで石つころを投ほう
 りこんで逃出すんだ、そりやね、時には、外おもてでいじめたこともあ

るき。だけれど、その時敗けて泣いた奴の方があんなに偉くなつて、わしやチンコツきりだ。わしやかなしい。」

悲しそうにわぎといつて唄のうたのように唄った。

そこでアンポンタンは、武家は精けた白米をもらうのでないという事を知った。どんな風にして、お米を精けるのかきくと、薬研で薬を刻むようにするのだといった。本町辺は薬種問屋の多いところなので、あたしは安座をかいて、薬草を刻んでいるのを見て知っていたからよくわかった。祖母の持薬を買いにゆくと、種々な薬を集めて、薬研でくだいて袋に入れてくれた事も見ている。徳久利でどうして春くのかといったら、薬研では玄米が破けてしまうから、貧乏徳久利で春くのだといった。

「藤木さんもお米をついたの？」

「私の家は禄とりだか高かだけ売ってお金にして、入用だけ白いお米で届けてもらったから——ていうと人聞きがいいが、来年の分も、さらい年の分も、金にし貸りてしまうので、よこす米がないってわけさ。浅草のお蔵前に、幕府の米蔵をあずかっている商人があつてね、旗本の咽喉のどを押えつけたのさ。そこから金にしてもらつたり、白米で渡してもらつたりしたものでね。清元の唄にある——首尾の松が枝竹町のつて——百本杭くの向う河岸の、お船蔵の首尾の松さ、あすこにわれわれのもらう、幕府の米がうんとうなつていても、そりやもう我々のものじゃないって訳わけでね。」

「どうしてお金にしてしまうの？」

「そこがね、どうも、ちつとお話にならない訳でね。」

藤木さんは頭をクルクル撫なでた。すると祖母が赤い胴なの着物を
もつて来て、

「寝ね間ま着きの丈たけが短くて、足がつめたいとお言いだそうだが、長い
のが間にあわないから私の下着を着て寝たらよい。」

「へえ？」

さすがの藤木さんも鹿かの子こ模様の赤い絹の胴をつまんで、呆あれ
た顔をして言った。

「結構でございます。だが——いやに思わせぶりっていうわけで、
有難いような、嬉しいような——百貫めの借銭負うて、紙か衣み着こた
伊左衛門じゃないが、昔をいやに思いださせるね。もつと尤も伊左衛門

つていう柄じゃなかったってね。そうそう、あかい胴の方が似合
う、お軽つていう役どころさ。——え？　なんだつて、猿芝居だ
つて？　戯談じょうだんじゃないよ、廻りの八丈の方が本役だつて？
そうですよ、そうだよ。へい、みつかどぎんなんろう三角銀杏老 お見舞いたす。お
みやくはいかがかな？」

あたしの手をとつて脈を見る真似をする。その晩、子供たちは
何時いつまでも眠ねなかった。藤木さんがおひきすその、赤い胴ぬきの
着物を着るのを見るまで——

青空文庫情報

底本：「旧聞日本橋」岩波文庫、岩波書店

1983（昭和58）年8月16日第1刷発行

2000（平成12）年8月17日第6刷発行

底本の親本：「旧聞日本橋」岡倉書房

1935（昭和10）年刊行

入力：門田裕志

校正：松永正敏

2003年7月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

朝散太夫の末裔

長谷川時雨

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>